



# 学力UP便り



## 全国学力・学習状況調査の結果から

全国の小6・中3を対象に毎年実施され、本校の6年生も4月に取り組んだ「全国学力・学習状況調査」。このほど、全国平均など、結果の詳細が文部科学省から公表されました。学力UP便り第6号では、公表された結果を受けて、学力における「帯小の子どもたちの姿の一端」について紹介させていただきます。子どもたちが、今後も効果的に学習を進めていくことができるような、何らかのヒントになればと思います。

### 【国語】

基礎・基本の力を問うA問題は、総合的に全国平均を上回る結果となりました。一方、活用力を問うB問題は、全道平均を上回ったものの、全国平均をわずかに下回る結果となりました。

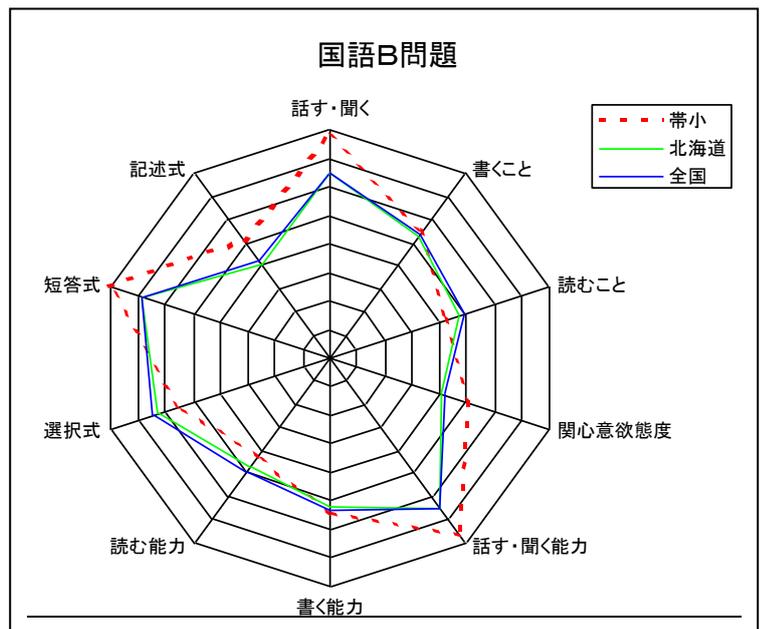
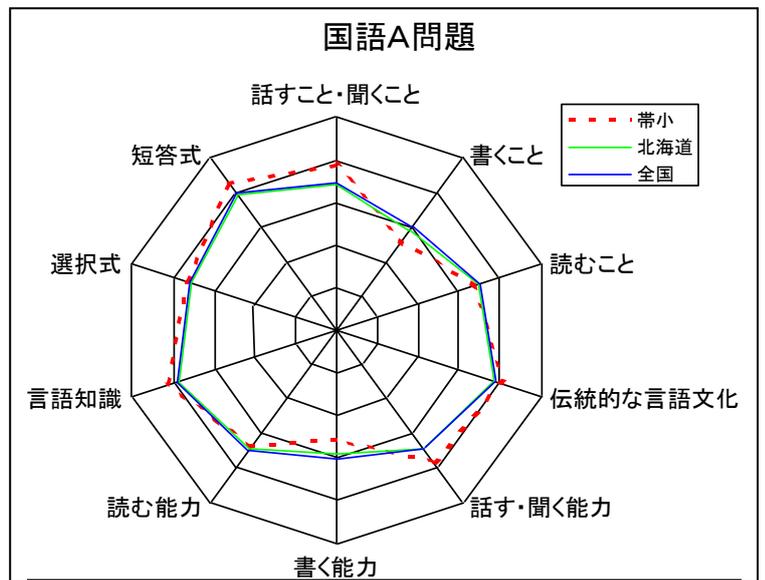
結果をより詳細に見ていくと、A問題の「話すこと・聞くこと」領域、及び「伝統的な言語文化～漢字や文法的な内容」領域が、領域別（～こと、で示される学習の範囲）で全国平均を上回りました。具体的には、ことわざ「餅は餅屋」の意味や、古文を音読して気づいたことを選ぶ問題などで、全国平均を上回っていました。

一方、「読むこと～文章の読解力」領域、「書くこと」領域は全国平均を下回りました。手紙の後付けに必要な日付、署名等の適切な位置を選ぶ問題などで、全国平均を下回っています。

B問題でも「話すこと・聞くこと」領域が大きく全国平均を上回りました。折り紙の魅力について、出題文をもとに自分の考えを書く記述式の問題などで、全国平均を大きく上回りました。

一方、「読むこと」領域は全国平均を下回りました。問題文中にある発言の意図として適切なものを選択する問題などで、全国平均を下回りました。

これらの結果からは、「読むこと」を得意としない子どもたちが、帯小には少なからずいることが窺えます。後のページで触れる「児童質問紙」からも、読書好きの子が全国平均より少ないという傾向が見られます。本に親しむ機会を多く設けるなど、「読むこと」が好きになるような環境づくりを、今後も進めていく必要があることが明らかになりました。



(裏に続きます)

【算数】

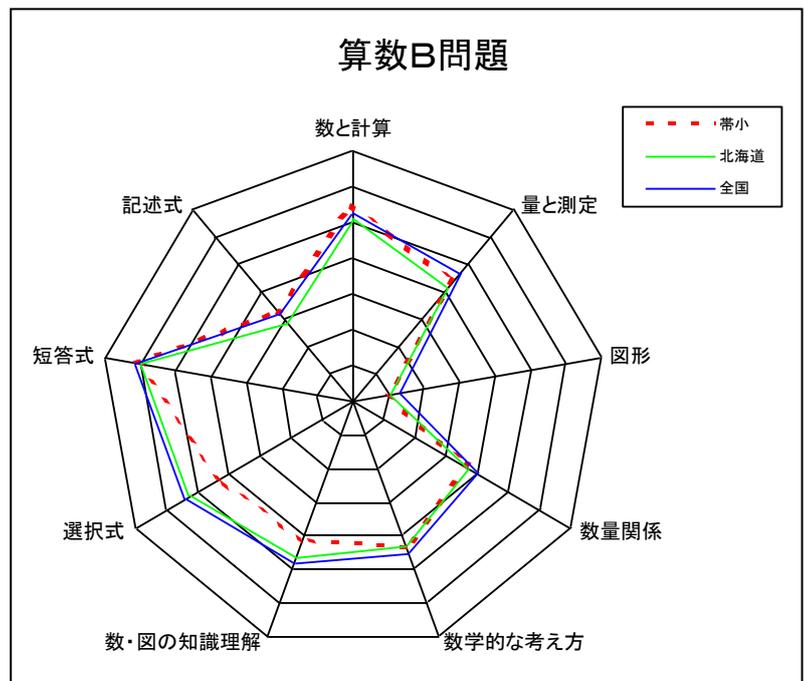
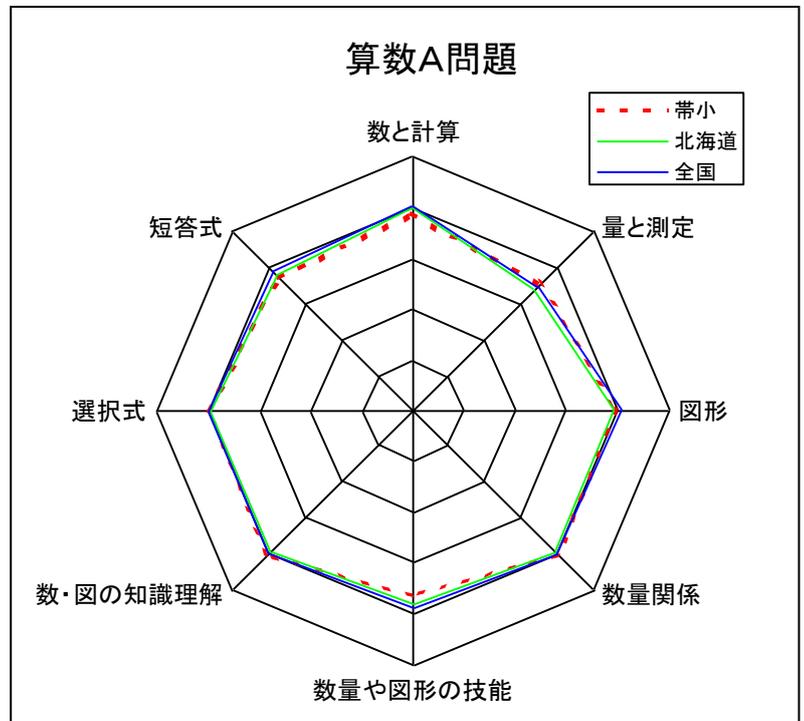
算数は、基礎・基本の力を問うA問題、活用力を問うB問題ともに、総合的に全道平均や全国平均をやや下回る結果となりました。

結果をより詳細に見ていくと、A問題では「量と測定」領域、及び「数量関係」領域が、全国平均を上回りました。計算の順序が問われる「 $6+0$ 、 $5\times 2$ 」の問題や、任意単位で重さや長さを比較しているものを選ぶ問題などで、全国平均を上回りました。

一方、「数と計算」領域、「図形」領域が、全国平均を下回りました。複数桁のかけ算「 $123\times 52$ 」や、「 $5\div 9$ 」の分数での表し方、8と12の最小公倍数を求める問題などで、全国平均を下回りました。

B問題では、「数と計算」領域で全国平均を上回ったものの、それ以外の領域では全国平均を下回る結果となりました。問題文中で説明されている内容や「カードの差」「2けたのひき算の答え」という文言を用いて、といった条件をもとに説明を行う問題などでは全国平均を上回りましたが、一定の条件下で平均を求める問題や、示された割合を解釈して基にする数と比べられる数を表す図を選ぶ問題（下の問題を参照）などでは、全国平均を下回る正答率になりました。

これらの結果からは、基礎・基本を大切に、筆算など、書くべきことはしっかり書くことによって、計算問題の単純ミスを減らすような習慣を、子どもたちに身に付けさせてあげるための工夫や、数量を「具体的なイメージ」として思い描くことができるようにするための経験の場を設けていくこと、何が課題なのかを明確にして問題に取り組もうとする姿勢、さらに、例えば単に公式を用いて機械的に答えを出すのではなく、「なぜそうなるのか」ということにこだわって答えを求める練習などが、今後も必要であることが明らかになりました。



5 正答率の低かった問題のひとつです。

月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。

「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べてと、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。



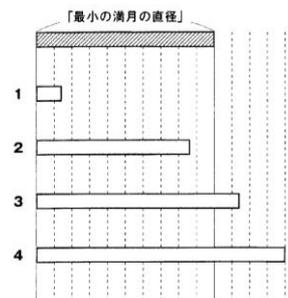
最も小さく見えるとき (イメージ)



最も大きく見えるとき (イメージ)

(1) 「最小の満月の直径」を■、「最大の満月の直径」を□として、図に表します。

「最小の満月の直径」をもとにして「最大の満月の直径」が14%長いことを表しているものを、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



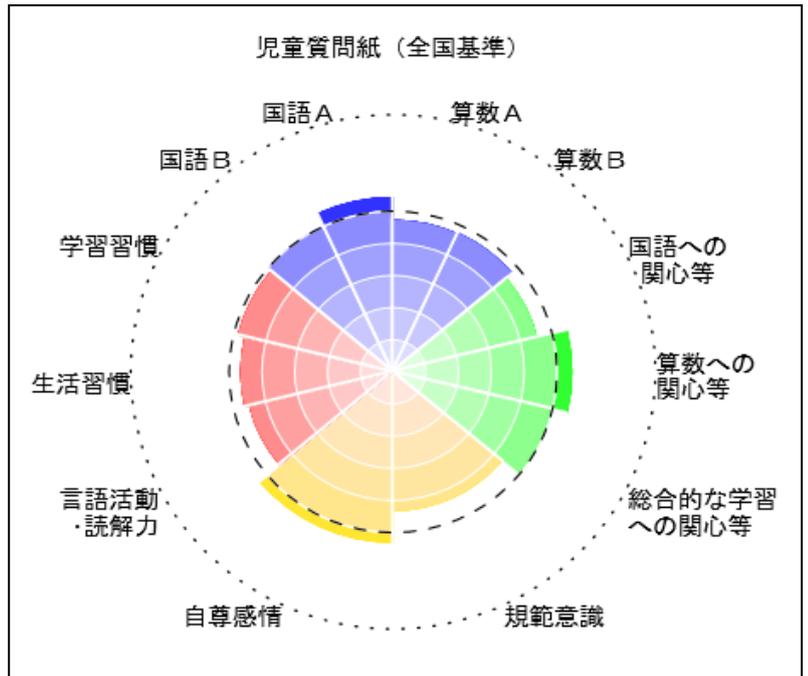
(2枚目に続きます)

## 「質問紙調査」から見えてくること…

全国学力・学習状況調査では、国語、算数の学習調査のほかに、学習意欲や方法、環境、生活の諸側面についてアンケート形式で答える、「質問紙調査」が実施されています。

このうち、本校の子どもたちに見られる特徴的ないくつかの側面について取り上げ、全国平均と比較しながらお知らせします。

右のグラフの見方ですが、色のついている部分が、本校児童の質問紙の結果です。色の部分とおおむね重なっている、円を描いている白黒の線が全国平均値です。学力（青い部分）で見ると、国語Aの部分の色が全国平均値を越えて広がっていることから、この教科は全国平均を上回る結果となったことがわかります。また、緑部分で示されている学習への関心の度合いからは、算数への関心が全国平均と比較して高い値を示していることがわかります。



黄色で示されているのが自尊感情、規範意識についての値です。自尊感情は全国平均を上回っていますが、規範意識が、極端に低い値になっています。(これは、昨年度も見られた傾向です。)

- 質問4「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」  
 質問6「自分には、よいところがあると思いますか」  
 質問49「学校のきまりを守っていますか」  
 質問50「友達との約束を守っていますか」

質問4と6は自己肯定感について、49、50は規範意識についての質問です。質問4は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせると、96.7%の値でした。全国平均と比べて高い値で、子どもたちの生活に対する満足度を見ることができます。質問6についても、「当てはまる」と答えた子の割合が全国平均の倍近い、高い値となっています。

一方、規範意識に関して、質問49では「当てはまる」は全国を大きく下回る値、「どちらかといえば当てはまる」まで合わせても、全国平均をやや下回る値でした。一方、質問50では「当てはまる」が全国平均を上回ったものの、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値になると、全国平均をやや下回りました。「友達との約束は守りたい。でも、できないときもある…」と、「自分に厳しく」振り返って考えている姿の現れなのかもしれません。

- 質問33「学校に行くのは楽しいと思いますか」

一方、質問33は全国平均を上回っており、本校の子どもたちの多くが、楽しく充実した学校生活を送っている様子を見て取ることができます。

続いて、赤い色で示された「生活環境」「学習環境」等についてです。

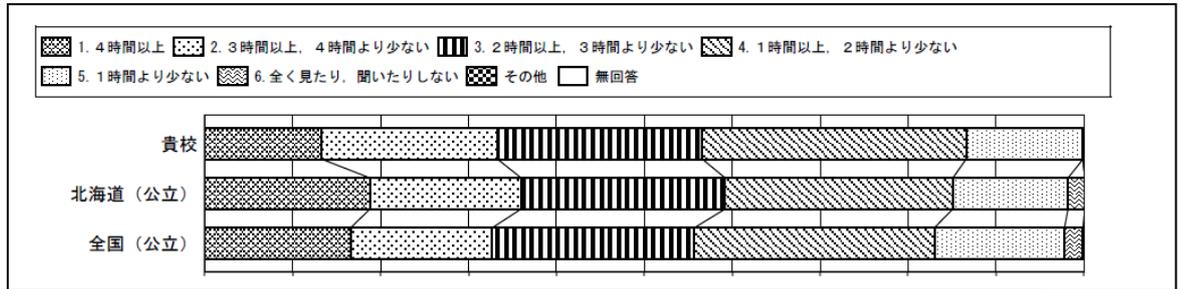
- 質問12「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ、DVDを見たり、聞いたりしますか」  
 質問13「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（携帯を含む）をしますか」  
 質問46「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」

裏面に続きます。

勉強以外での、家での時間の使い方についての質問です。一部の質問についてはグラフも掲載し、詳しく見ていきたいと思えます。

質問12では「2時間以上」と答えた率が、全道平均は下回ったものの、全国平均を上回っています。ただし「4時間以上」と答えた率は全国平均を下回っており、以前と比較すると、ややテレビやビデオ、DVDを見る時間が減ってきているといえます。

質問12の結果

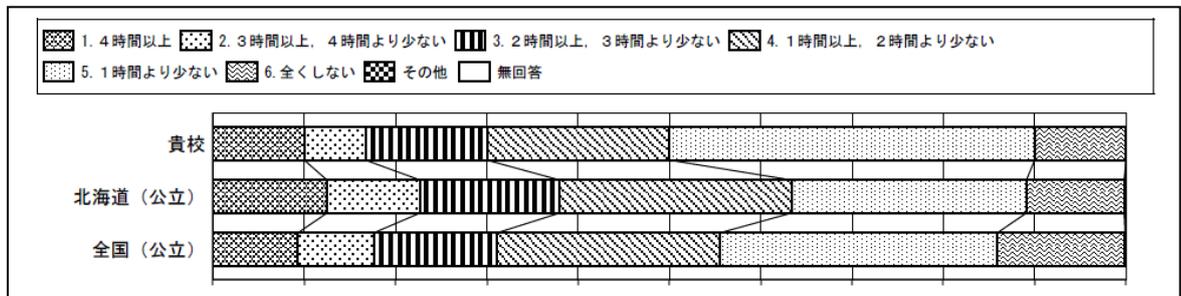


質問26「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていきますか」

この質問では、「している」と答えた率が、全国平均を上回る結果となっており、お家の方との約束が、子どもたちの生活習慣をよりよいものに行っていることが分かります。

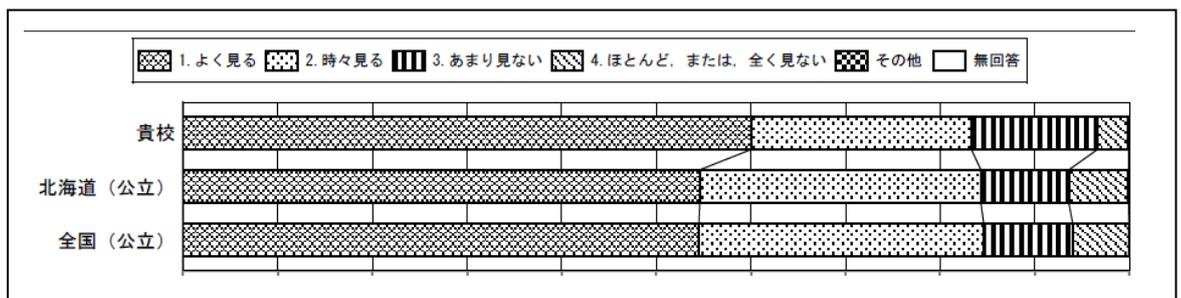
質問13では、「1時間以上」の全ての合計値が、全国平均を下回りしました。こちらも、時間的には減ってきているといえることができます。

質問13の結果



一方、質問46では、「よく見る」と答えた率が全国平均を上回っています。「時々見る」まで含めると、全国平均を下回るものの、テレビやインターネットを情報ツールとして活用している子が多いことが明らかになりました。

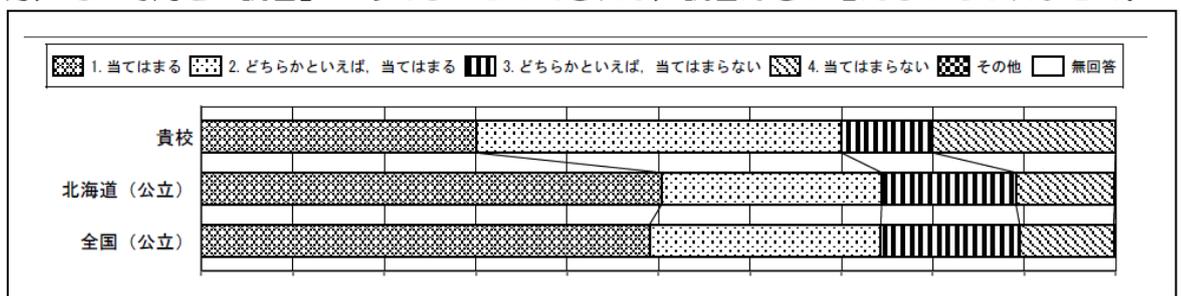
質問46の結果



質問72「読書は好きですか」

国語A, Bの解説の中で触れた「本を読むこと」についての質問ですが、「当てはまる」は全国平均を大きく下回り、「どちらかといえば、あてはまる」まで含めても、全国平均に及びません。テレビやDVDの視聴時間が少ない分、その時間を「読書」にあてることができれば、読書好きが増えるかもしれません。

質問72の結果



(3枚目に続きます)

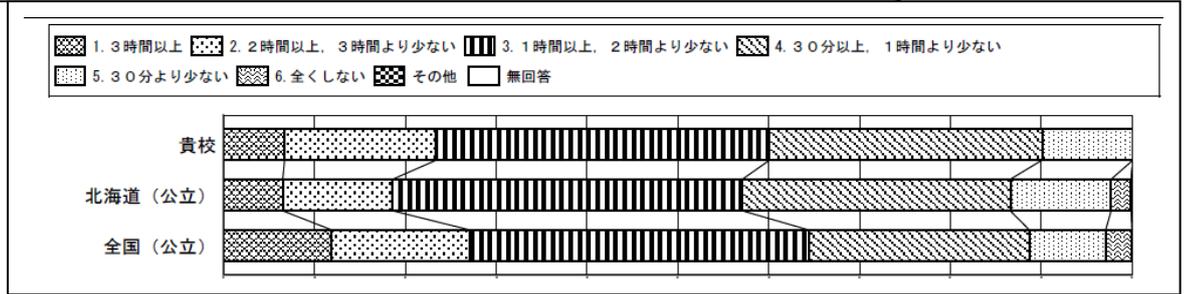
## 学力UP便り 第5号(3)

次に、家庭での学習時間についての質問です。

質問15「普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

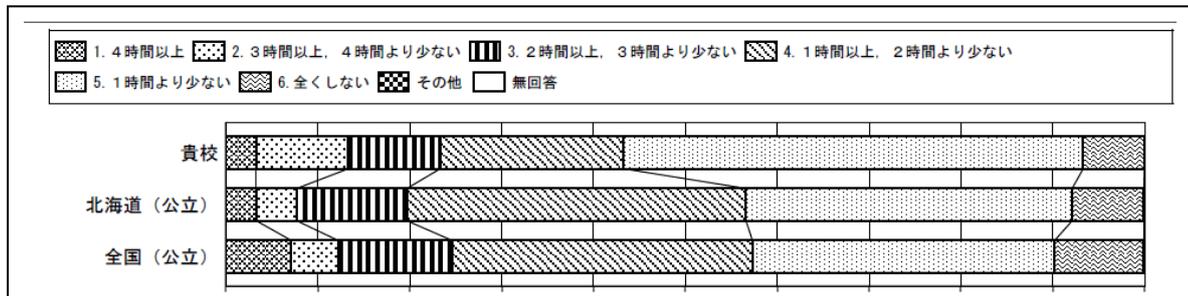
質問16「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」

### 質問15の結果



本校での家庭学習は「学年×10分+10分」としており、6年生の場合は「70分以上の家庭学習」を呼びかけていますが、「1時間以上勉強する」と答えている率は、全国平均を下回る結果となっています。家庭学習は、中学生になってからも、とても重要です。ぜひ、身に付けさせたい習慣です。

### 質問16の結果



学校が休みの日も、事情がある場合を除いて家庭学習を行うことが、学習習慣を身につける上で大切です。質問16でも、「1時間以上勉強する」と答えている率が全国平均を下回る結果となっています。帯小では休み日も含め、基本的に毎日宿題を出しています。子どもたちが家庭での学習習慣を確実に身に付けられるよう、ぜひ、ご家庭でのお声掛けをよろしくお願いいたします。

続いて、家庭での予習や復習、その方法についての質問です。

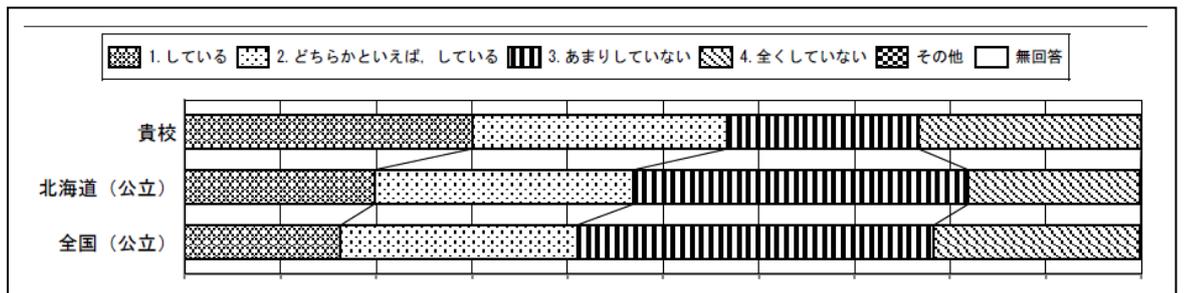
質問31「家で、学校の授業の予習をしていますか」

質問32「家で、学校の授業の復習をしていますか」

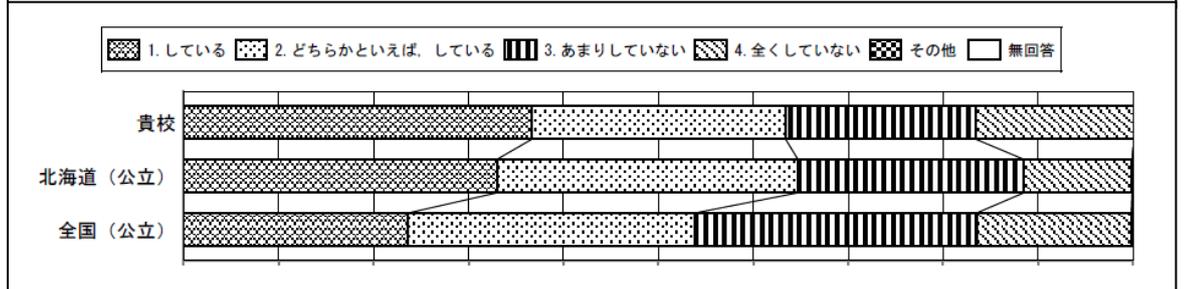
質問30「家で、学校の宿題をしていますか」

質問30、31、32は、家で宿題や予習、復習を行っているかを問うものです。

### 質問31の結果



### 質問32の結果

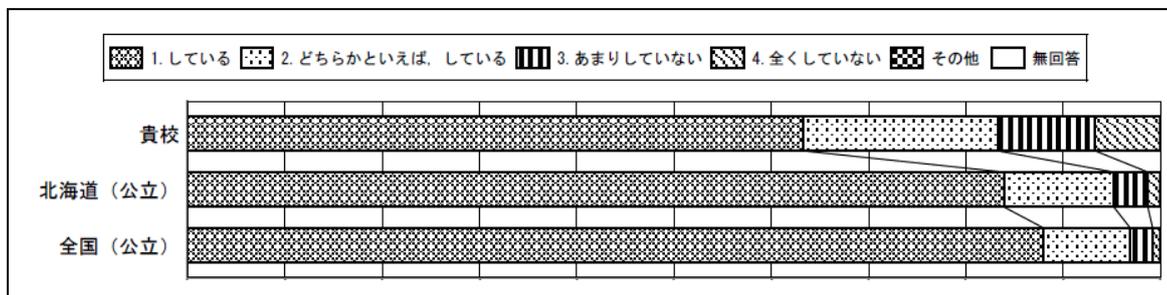


質問31、32の予習、復習について、ともに「している」と答えた値は、全国平均を上回っています。「どちらかといえば、している」まで含めても、復習の項目では北海道平均を若干下回るものの、全国平均

(裏面に続きます)

を上回る値を示しています。ここからは、学校での学習の確認を、家庭学習の中で行っている様子が見て取れます。復習は、その日の学習内容を確実に身につけるための、重要な学習方法のひとつです。自分自身が今必要としている学習内容を見定め、自分自身で学習の内容を決めて取り組むことができれば、それは必ず大きな力につながっていきますので、すばらしい結果であるといえます。このような習慣を今後も引き続き大切にしていけるよう、今後も学校で指導を進めていきます。

### 質問30の結果



一方、質問30については、「している」「どちらかといえば、している」のいずれも、高い値ではありますが、全国平均をやや下回っています。予習、復習と同様、家庭で宿題にも取り組むことで、学習内容を確実なものにしていけるよう、その習慣を確実に子どもたちに付けさせてあげたいと考えています。

以上、質問紙調査について、いくつかの結果をお示ししましたが、全国平均と比べたとき、帯小の子どもたちの実態はどのようなものなのだろう、という疑問への答えにつながるヒントを少しでもお示しできていれば、嬉しく思います。また、前半で触れた学力面につきましても、この調査が「すべての学年での学習内容を網羅している」という特徴をもっていることから、単に今年度の参加者のみの結果ではなく、本校児童全体の姿の一端であると受け止めていただければ幸いです。

本校では、子どもたちの成長を願い、今後も職員が一丸となって指導を進めていきます。しかし、子どもたちが健やかに育っていくためには、ご家庭の皆様の協力も欠かせません。今後とも本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。